

第1回徳島文化芸術ホール(仮称) 管理運営計画検討委員会資料

資料1



徳島県

検討経緯、設計検討状況



徳島文化芸術ホール(仮称)の建設予定地



出典：国土地理院

これまでの経緯

日時	内容
平成27年 4月	徳島市立文化センター（ホール客席数：1,280席）利用中止 ⇒以降、徳島市内に1,000席以上の公共ホールがない状況が続く
令和 2年 9月	徳島市が徳島県に対し、新ホール整備の早期実現に向けた緊急要望
令和 2年10月	「県市協調未来創造検討会議」発足 （会長：徳島県知事、副会長：徳島市長）
令和 2年12月	「県市協調新ホール整備基本方針」策定
令和 3年 3月	「県市協調新ホール整備基本計画」策定
令和 3年 5月	公募型プロポーザル公告（設計・施工一括発注方式）
令和 3年 6月	整備に向けたプロジェクト名称決定（awa アワー project）
令和 3年 7月	プロポーザル1次審査
令和 3年 9月	プロポーザル2次審査、優先交渉権者決定
令和 3年11月	優先交渉権者と基本協定及び基本設計契約を締結

県内の公共文化ホールの状況

地域	市町村	施設名	開館	客席数	設置者	管理
県東部	徳島市	あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）	S46	809席	徳島県	指定管理
		アスティとくしま（徳島県立産業観光交流センター）【アリーナ型施設】	H5	5,000席	徳島県	指定管理
		徳島県立21世紀館	H2	300席	徳島県	直営
		徳島市シビックセンター	S58	200席	徳島市	指定管理
	小松島市	サウンドハウスホール（小松島市ミリカホール）	H11	320席	小松島市	直営
	吉野川市	吉野川市鴨島公民館	S55	615席	吉野川市	指定管理
	阿波市	阿波市交流防災拠点施設（アエルワ）	H27	645席	阿波市	指定管理
	藍住町	藍住町総合文化ホール	R1	633席	藍住町	直営
	板野町	板野町文化の館	H7	500席	板野町	直営
石井町	石井町中央公民館	S61	664席	石井町	直営	
県南部	阿南市	阿南市文化会館（夢ホール）	H11	693席	阿南市	指定管理
		阿南市情報文化センター（コスモホール）	H7	550席	阿南市	指定管理
	海陽町	阿波海南文化村	H8	422席	海陽町	直営
県西部	美馬市	美馬市地域交流センター（ミライズ）	H30	501席	美馬市	指定管理

※公益社団法人全国公立文化施設協会「公共文化施設検索」（R4.2現在）の掲載施設

※客席数はメインホールのみ

1 策定

令和3年3月

2 基本目標

県全体の文化芸術の振興や県都のにぎわいの創出等の中核施設としての役割を担うことから、豊かで活力ある地域社会の実現に向けた整備を進めるため、
「徳島ならではの文化芸術の力を結集し、夢と希望あふれる未来を創生する」
を基本目標とする。

3 施設の使命

- 徳島ならではの新たな文化芸術を創造し、魅力を発信する。
- 徳島の文化芸術の未来を担う人材を育てる。
- 県民に優れた文化芸術を鑑賞する機会を提供する。
- 国内外の多くの人々が集う施設となり、県全体の活力を向上させる。

4 事業の方向性

- 文化創造、魅力発信事業
- 次世代人材育成事業
- 鑑賞機会提供事業
- にぎわい創出事業

縣市協調新ホール整備基本計画の概要

5 建設予定地及び施設の構成

- 「徳島市立文化センター跡地」「徳島県青少年センター敷地」「徳島市中央公民館、徳島市社会福祉センター敷地」を建設予定地として、大ホール（1800～2000席）、小ホール（300～500席）、多目的スタジオ等で構成する施設を整備。
- 「寺島公園」、「旧・徳島中央警察署敷地」を一体的に活用。

6 整備手法

「設計・施工一括発注方式」のうち「設計交渉・施工タイプ」

7 整備スケジュール

「大阪・関西万博」の波及効果を視野に入れ、2025年度の開館を目指す。

8 管理運営の基本的事項

- きめ細かなサービスの提供
- 既存概念にとらわれない文化芸術の専門性の確保
- 文化芸術活動を安定的に継続させる施設管理
- 経営的視点を持った管理運営
- 事業評価の仕組みの構築

9 運営手法

「指定管理」を基本とし、管理運営計画の中で有効な手法を採択。
（「直営」「指定管理」のメリット、デメリットを整理）

設計・施工に係る事業者の選定について

1 事業者の選定方式

- ・公募型プロポーザルを実施。
- ・二段階方式での審査により優先交渉権者を決定（1次：設計者を選定、2次：設計・施工者による共同企業体を選定）

2 審査委員

妹島和世（横浜国立大学大学院Y-GSA教授）
小泉雅生（東京都立大学大学院教授）、津村卓（地域創造プロデューサー）
中山英之（中山英之建築設計事務所主宰）、板東久美（徳島文理大学教授）
松重和美（四国大学学長）、眞野純（神奈川県民ホール／神奈川県芸術劇場 館長）

3 事業者の選定経過

R3.5.14 公募開始
R3.7.16 1次審査（26者の設計者が参加）
R3.9.18～19 2次審査（5者の設計・施工者による共同企業体が参加）
優先交渉権者決定
R3.11.17 基本協定、基本設計契約を締結、基本設計（～R4.6.15）

4 基本設計契約後

- ・基本設計段階で、価格交渉が成立した場合に、実施設計契約を締結。
- ・審査委員は、優先交渉権者決定後も、事業支援として県に助言を行う。

※詳細の基本設計の状況は、2回目以降の管理運営計画検討委員会でお示しします。



舞うように集まる

～熊谷・石上純也・IAO竹田・アクト環境・ピーエス三菱・野村建設拡大共同企業体～

◆箱ではなくランドスケープをつくること

私達の提案するホールは、一般的な「箱」としてのホールとは異なります。
敷地に鎮座する巨大な箱ではなく、敷地に舞うように広がり、威圧感を軽やかにし、周囲と連続していく優しいランドスケープとして計画します。



◆多様な価値観で楽しむこと

箱に詰められ一斉にひとつの方向を眺める整然と並べられた画一的な客席がつくる空間に対し、このホールは、宙を舞う花びらのようなテラスによる多種多様な客席の配置により、個性の違う楽しみ方を観客に届けることができます。



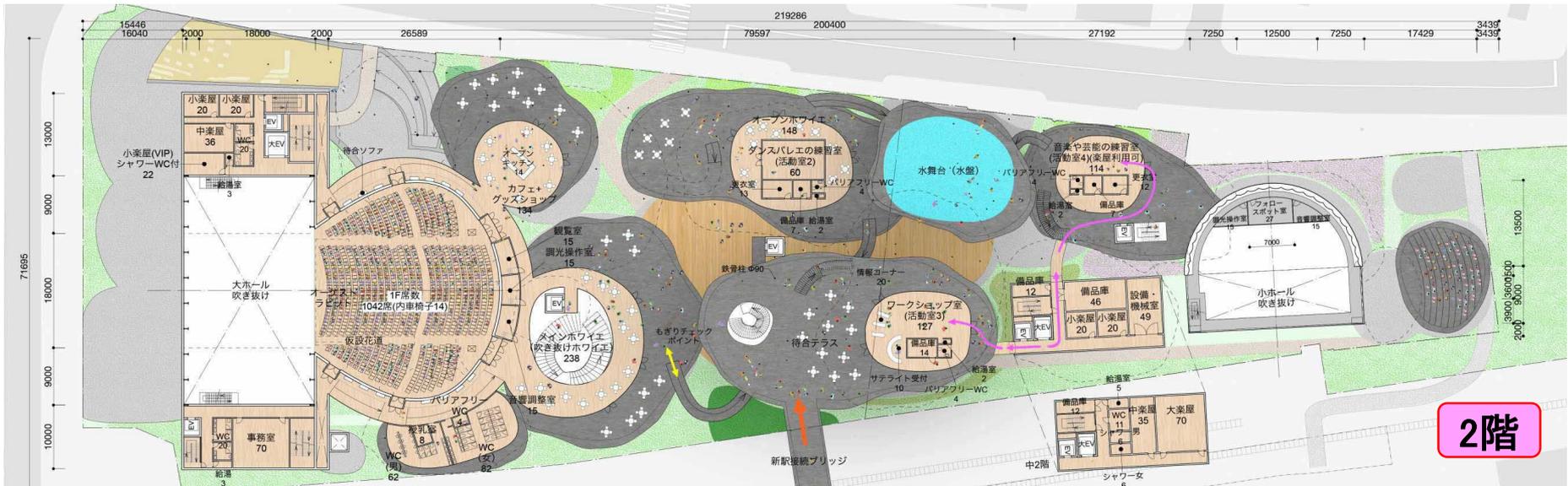
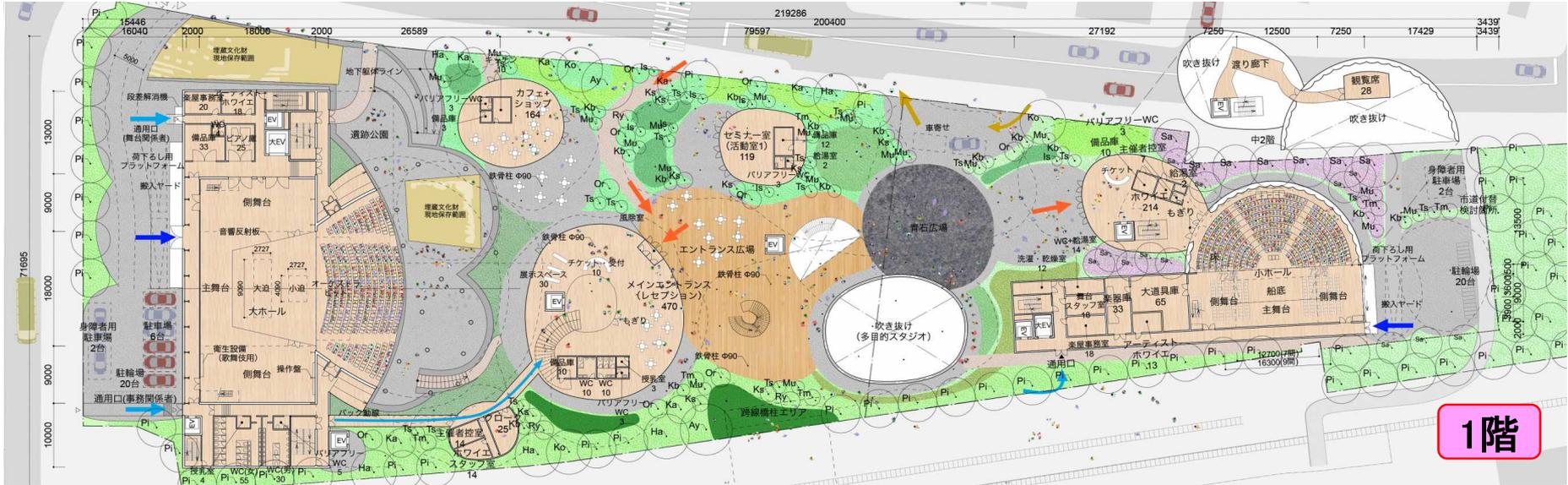
◆ホールの使い方を考えること

施設全体はテラスの集合体で構成されているので、大ホールも小ホールもその他の機能もはっきりとした輪郭があるわけではありません。
時代の変化に合わせ、施設の使い方そのものを様々に考えていくことが可能です。



※記載内容は技術提案書より抜粋

《参考》優先交渉権者からの技術提案書(2次審査)



徳島文化芸術ホール(仮称)の整備概要

所在地	徳島市徳島城内1番地ほか	
敷地面積	19,004㎡	
施設構成	第1工区	【大ホール】 客席：約1,950席 主舞台：間口10間（約18m）×奥行き10間（約18m） 付属施設：楽屋、リハーサル室 【エントランス広場】、【屋外テラス】
	第2工区	【小ホール】 客席：約300～500席 主舞台：間口7間（約12.6m）×奥行き5間（約9m） 付属施設：楽屋 【多目的スタジオ】約300㎡ 【活動室】4室（60～90㎡）、【屋外テラス】
	第3工区	【外構】、【駐車場】
整備期間	設計	令和3年11月～令和5年5月（うち基本設計：～令和4年6月）
	施工	第1工区：令和5年4月～令和8年2月 第2工区：令和6年2月～令和8年9月 第3工区：令和7年7月～令和8年9月
開館	令和8年8月グランドオープン（小ホール等は令和9年3月）	
設計・施工者	熊谷・石上純也・IAO竹田・アクト環境・ピーエス三菱・野村建設拡大共同企業体	
設計・施工費	約205.5億円	

※客席数、整備期間、設計・施工費等は、公募型プロポーザル技術提案書ベース（今後、設計等の過程で変更の可能性あり）

管理運営計画検討の進め方



1 管理運営計画の進め方

- 令和4年度中に「徳島文化芸術ホール（仮称）管理運営計画」を策定し、開館に向けて施設の管理運営の在り方を示す。
- 計画の策定に向け、令和3年度から令和4年度にかけて、5回程度の検討委員会を開催。（各回の委員会の検討項目は次頁のとおり）
- 県内文化団体をはじめとした県民のご意見を把握するため、管理運営ワークショップやヒアリングを実施する予定。（令和4年6～9月頃を予定）
また、管理運営計画の案に対して、パブリックコメントを実施する予定。

2 管理運営計画検討委員会

■設置目的

- 徳島文化芸術ホール（仮称）の開館に向け、施設の管理運営計画を策定するにあたり、専門的な立場からの意見等を聴取する。

■検討委員

浅香 寿穂	（公益財団法人徳島市文化振興公社 芸術監督）
小澤 櫻作	（上田市交流文化芸術センター プロデューサー）
佐々木 志保	（公益財団法人徳島経済研究所 研究員）
真田 弘彦	（新潟市文化スポーツ部文化政策課 課長補佐）
藤野 一夫	（芸術文化観光専門職大学 副学長）
吉本 光宏	（株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事）

管理運営計画検討委員会のスケジュール

開催時期	全体進行	主な検討項目
第1回 (R4.3)	これまでの検討経緯 管理運営計画検討の進め方	全体構成案 事業展開概要 など
第2回 (R4.5頃)	管理運営計画（部分案） ワークショップ等実施案 基本設計経過報告	事業展開（自主事業の考え方、 開館・プレ事業、広報） 施設運営（運営規則） など
第3回 (R4.7頃)	管理運営計画（部分案） 基本設計報告	施設運営（組織体制、運営手法） 事業評価（評価の考え方、評価手法） 収支計画（収支の考え方、収支想定） など
第4回 (R4.9頃)	管理運営計画（素案） パブリックコメント実施案 ワークショップ等実施報告	管理運営計画（素案）
第5回 (R4.12頃)	管理運営基本計画（最終案） パブリックコメント実施報告 次年度以降の計画	管理運営基本計画（最終案）

1 管理運営計画の位置づけ

2 事業展開

- 事業計画（自主事業）
- プレ事業、開館記念事業
- 中長期事業展開
- 広報計画

3 施設運営計画・貸館計画

- 組織体制（必要な専門性、人数等）
- 利用規則（開館日、開館時間、申込方法等）
- 県民参加
- 運営手法（指定管理制度の導入等）
- 利用料金（設定の考え方）
- 共用空間の管理

4 事業評価

- 評価の基本的な考え方
- 評価の手法

5 収支計画

- 収支の基本的な考え方
- 収支想定

6 その他

- 開館までのスケジュール など

1 文化創造、魅力発信事業

- 阿波藍、阿波人形浄瑠璃、阿波おどり、ベートーヴェン第九の「あわ文化4大モチーフ」や邦楽、ジャズ、クラシックの「あわ三大音楽」を軸として、徳島ならではの新たな文化芸術を創造。
- ICT、LED、4K・8K、VR、5Gなどの最先端技術を活用。
- 「2025年大阪・関西万博」など世界の注目が関西に集まる機会を活用。

2 鑑賞機会提供事業

- 優れた文化芸術の鑑賞機会を提供。
- 全ての年代の人々に楽しんでいただける「鑑賞の場」を創出。
- 徳島を代表するホールとして、照明、音響、映像などの最新機器や、伝統芸能の公演にも対応した機能的な舞台を効果的に活用。



3 次世代人材育成事業

- 幅広い分野の文化芸術の「体感の場」の提供や、新しい才能の発見・育成につなげる「活躍の場」を創出。
- 「障がい者」や「子どもから高齢者」、「外国人」など、幅広い方々が主体的に参画できるイベントや講座などを開催し、多様な個性の相乗効果による新たな価値の「創造の場」を創出。
- 県全域へのアウトリーチ活動を実施。



4 にぎわい創出事業

- にぎわい創出の拠点となるよう、中・四国大会や全国レベルでの広域大会をはじめ、国際会合や世界的な学術会議などの誘致、開催。
- まちと一体化する県都のランドマークとして機能を高め、文化芸術を通じた県全域への誘客促進につながる取組みを展開。
- 複数のテラスで構成される建物形状を活かし、ホール機能と連携した、まちづくりイベントの運営やオープンスペースの活用。

